

ACR動作説明

この資料では、以下の内容の説明をしています。

1. PCWL-04XX/0500/0510の起動時、及びレーダー検知時の動作について
2. ACR (Adaptive Channel Recovery) の通常動作
3. ACR 例外動作 1
4. ACR 例外動作 2

※ACRとは・・・

- DFS処理を高速化したもの。レーダー検知時、利用chから別chへの切り替えの時間を短縮します。
- PCWL-0500/0510に搭載のACR機能は、バックホール回線のみを搭載されています。

■Coreの動作

- 起動時
 - 設定ファイルにあるチャンネルで動作を開始(DFSチャンネルの場合はCACを実施)
- レーダー検知時
 - ランダムに新しいチャンネルを選択し動作を開始 (DFSの場合はCACを実施)

■Branchの動作

- 起動時
 - ※Coreを見つけるためにチャンネルスキャン (CoreのCACが終わっている必要がある)
 - ※Coreを見つけたチャンネルで動作を開始 (DFSチャンネルの場合はCACを実施)
- レーダー検知時
 - ※の動作

■Coreの動作

・起動時

- ①設定ファイルにあるチャンネルで動作を開始（DFSチャンネルの場合はCACを実施）
- ②動作開始後に移行予定チャンネルを選択し、Branchに通知（CAC開始）

・レーダー検知時

- 移行予定チャンネルで動作を開始 → ②を実行
移行予定チャンネルが未定の場合はランダムに選択

■Branchの動作

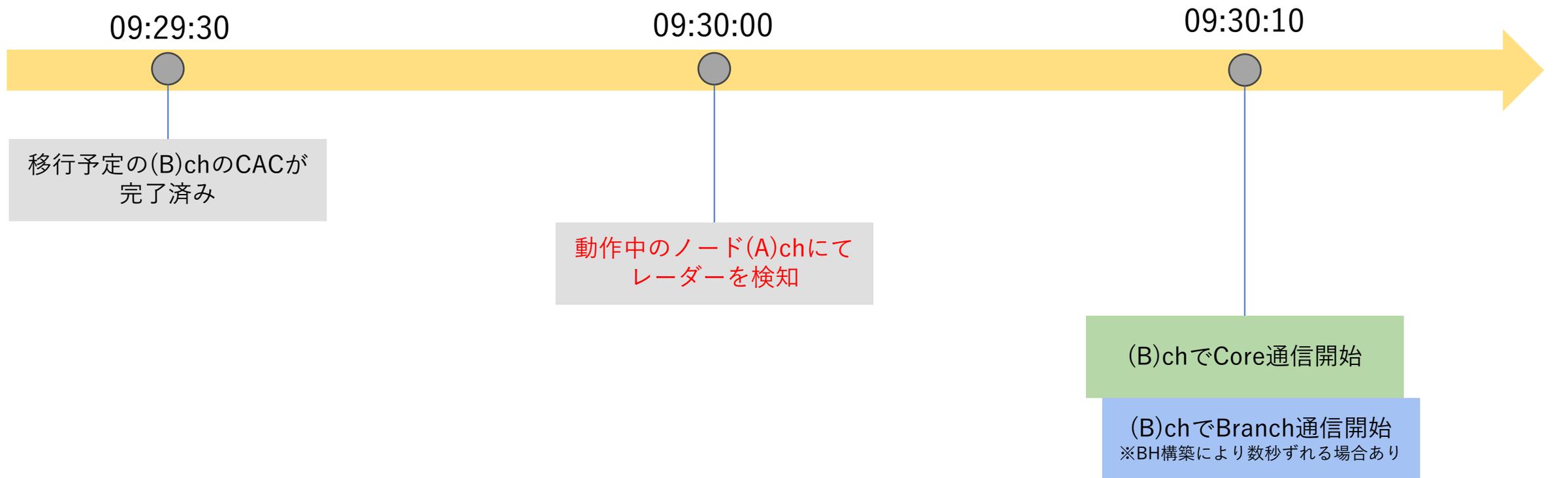
・起動時

- ※コアを見つけるためにチャンネルスキャン（コアのCACが終わっている必要がある）
コアを見つけたチャンネルで動作を開始（DFSチャンネルの場合はCAC）
コアから受け取った移行予定チャンネルでCAC開始

・レーダー検知時

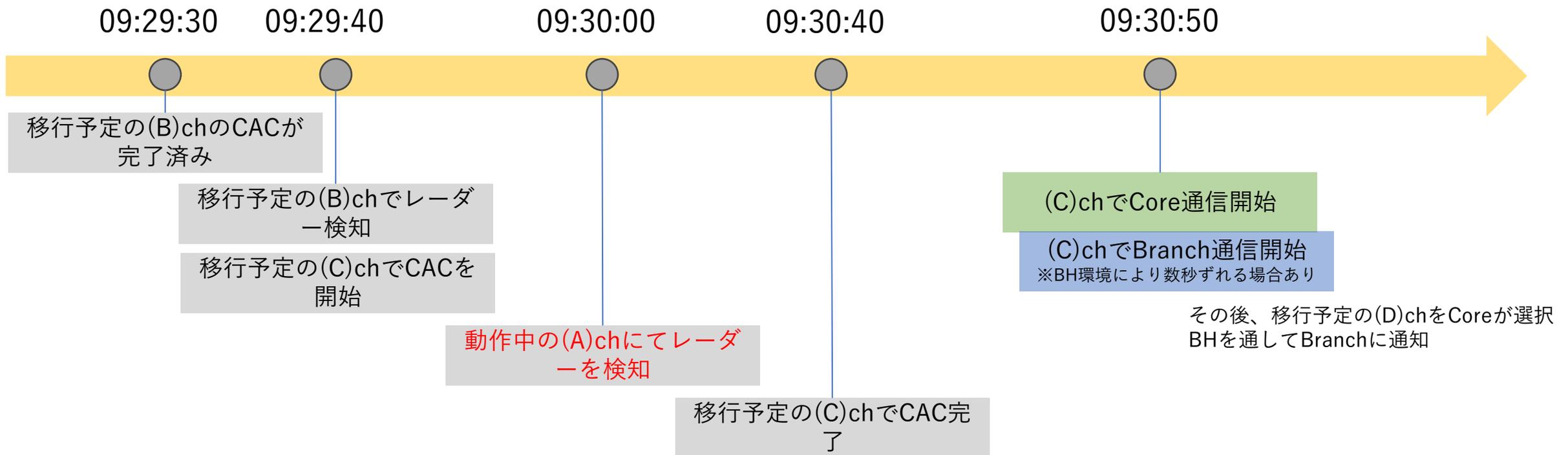
- 移行予定チャンネルで動作を開始（移行予定チャンネルを知っている場合）
※の動作を開始（移行予定チャンネルを知らない場合）

- ACRの通常動作の場合、約6秒から10秒で通信が再開されます。（Core/Branch共通）



その後、移行予定の(C)chをCoreが選択
BHを通してBranchに通知

- 動作中の(A)chのレーダー検知前に、CAC完了済みの移行予定(B)chにてレーダーを検知し、動作中の(A)chのレーダー検知までに、CACが間に合わなかった場合。(Core/Branch共通)



- 例外動作1の途中、09:30:40の移行予定の(C)chにて、CAC完了前に(C)chでレーダー検知をした場合、Branchの通信開始までに、最初のDFS発生時から2分以上かかります。

